

会 議 録	
会議名	令和 5 年度第 1 回在宅医療・介護連携推進協議会 研修部会
日 時	令和 5 年 6 月 2 0 日 (火) 1 3 時 3 0 分～1 4 時 3 0 分
会 場	グーグルミートWEB会議
参加者	<p>【副部長】佐藤真人 (たかの薬局)</p> <p>【委 員】榊原佳彦 (三愛会総合病院)、三瓶裕之 (三郷ケアセンター)、吉野良佑 (地域包括支援センターみさと中央)、山本洋子 (ファミリーケアたかの)、宮田姫芳 (アスカ訪問看護ステーション)、川津清和 (みさと協立病院居宅介護支援事務所)</p> <p>【サポートセンター/三郷市医師会】藤井なほ美、川島幸道</p> <p>【市事務局】八巻絢子、小笠原郷太</p> <p style="text-align: right;">(敬称略)</p>
検討課題	<p>1. 研修部会の活動について</p> <p>2. 今年度の活動方針</p>
内 容	<p>1. 研修部会の目的、部長、部副部長の確認、委員の確認 (4 人変更) 各委員に確認、了承頂いた。</p> <p>2. 今年度のスケジュールについて 本日を第 1 回とし、3～4 回で開催予定とし適宜実施する。</p> <p>3. 予算について 今年度の予算については 40 万 (税込み) となっている。</p> <p>4. 今までの活動内容 (医療介護関係者向け研修会等の実施)</p> <p>① 2022 年度：第 1 回 BCP 研修として策定の基礎となる三郷市防災計画についての説明 10 月 29 日 (土) におどり会場と WEB 開催 (Youtube 後日配信あり) 「三郷市災害発生時の被害想定と対応」</p> <p>② 2021 年度：コロナ感染症が広がる中、三郷市の各事業所は現場でどういう対策をされていてどんな課題があるか研修部会からの発表 第 1 回：10 月 22～28 日 (水) Youtube 配信研修会 「三郷市のコロナ禍における「各職種の現状」」</p> <p>③ 2020 年度：コロナ感染症が広まり始めている中、各事業所の対策はどうしているか。研修部会委員からの発表と感染対応を行った病院感染症対策責任者からの実例や説明 第 1 回：10 月 14 日 (水) 19：00～20：00 WEB 研修会</p>

	<p>「事務所の感染防止対策かかってしまったらどうなる？どうする？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各職種の感染防止対策 ・新型コロナウイルス感染症発生時の実際の対応 <p>④ 2019年度：介護福祉士、ヘルパーを重点とした実技を交えた研修</p> <p>第1回：9月27日（金）18：30～20：00 「理学療法士によるリハビリ及び介護ポジショニング」</p> <p>第2回：11月11日（月）18：30～20：30 「口腔ケアと嚥下評価について ～口腔ケア相互実習およびVEを会場で行い評価～」</p> <p>第3回：令和2年2月15日（土）14：00～16：00 「フットケア 削らないで治すには？」</p> <p>⑤ 2018年度：ケアカフェ風、各職種の紹介とディスカッション</p> <p>第1回：7月13日 定期巡回・随時対応サービスについて 薬のことは薬剤師にお任せください ディスカッションテーマ：薬・くすり</p> <p>第2回：9月14日 訪問歯科にできる事 リハビリテーション連絡協議会について ディスカッションテーマ：リハビリ～そこが知りたい</p> <p>第3回：10月12日 在宅における医師の仕事 三郷市介護支援専門員連絡協議会について ディスカッションテーマ：ケアマネさんのイメージって？</p> <p>◆令和5年度の多職種向けの研修会を、どのような内容で行うか、</p> <p>5. 令和5年度の三郷市の課題について</p> <p>※①協議会の課題」、「②研修部会の継続課題」を踏まえて 令和5年度の課題とする。</p> <p>①三郷市在宅医療介護連携推進協議会で上げられた地域の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「在宅看取りについて」 <ul style="list-style-type: none"> A. 医療介護関係者同士が、本人の意思の情報共有、理解、役割を深めるにはどうしたら良いか。 B. 医療介護関係者が担う役割についてお互いの認識が足りない。
--	---

②研修部会で継続して取り組んできた課題等

- ・「ACP（在宅看取りを含む）」
- ・「BCP（事業継続計画）」
- ・「ポリファーマシー」

6. 令和5年度の活動方針

①活動テーマ

三郷市在宅医療介護連携推進協議会の研修方針決定を踏まえて、令和5年活動テーマは「在宅看取り（ACP）」となった。

また「BCP」については令和4年アンケートによる参加者ニーズとして策定内容が実際とあっているか、事業者同士や利用者の連携、情報共有によるものが多く、今後も活動案について委員から意見を聞き、検討していく事とした。「ポリファーマシー」についても同様に検討していく。

②活動方法についての各委員の意見交換

■看取りの現場を知るといことで訪問看護の看護師さんが実際に何を行っているか聞いてみたい。

■多職種の連携が必要になってくる。三郷市の多職種を集めて意見交換や事例を用いたディスカッションのほうが講師を呼んで講演を行うよりフィードバックできると思う。

看取りの中心はやはり主治医なので、医師が考えていることを聞ける場があればよいかなと思う。

三郷市内もおくりびとと言う業者が葬儀屋のエンゼルケアを講師として勉強会を開催していて、大変為になる。

■目的が連携促進と地域包括ケアの推進なので連携に繋がる話題がよいのかなと思う。

看護・介護の話が中心になりやすいが、リハビリの視点から見ても面白かなと思う。

色々な職種が興味を持って、話し合える場が作れば、色々な立場で必要なところに話せるカフェのようなのかなと思う。

■連携に関して、急に病院を退院になり在宅看取りとしてケアマネが環境整備するケースがあった。

ケアマネも他の研修で在宅看取りケースを出したりしている。三郷市の各職種がそれぞれの視点で情報共有できれば身になる

のかなと思う

- 訪問介護ではターミナルになって急な依頼が来て、そのままバタバタと看取りのなることが多々ある。独居の方で本人や関係者がお互いに ACP や今後のことを聞き出せないケースがあった。こういったケアは終わった後になかなか振り返れない、どうしたら良かったのか考えられる、そういう場があればよいと思う。
- 老健でも看取りを行っている。この3年間コロナ感染症で、なかなか面会ができなかったこともあり、どの時間でも面会できる体制を整える取り組みをしている。また、施設看取りでなく在宅看取りになった場合でも緩和ケアに繋げたり、可能なサポートを提供するようにしている。
- 事例を出して話し合うという形式は現場の事も知れるし、連携を深めて勉強になるので良いと思う。講師を呼んで知識を深めるのも良いと思う。
- 在宅看取りに向かう流れをケース設定してパネルディスカッションをしたらどうか。例えば「病院や施設から在宅看取りに行く時にどういう家族指導をしていくか関係者とどう連携していくか、「自宅に帰ってから」関係者とどういう動きになっているか等。パネルディスカッションにすれば1つの事例を共有しながらパネラーに意見を出していけるのではないか。
- 事例に関して複数用意するのは、提供者がいるのかという問題はあると思う。1例に対して全体でディスカッションする方が良いのではないか。
- 医師から事例を出してもらうことは可能でしょうか。
- ディスカッションの総評、まとめを高橋先生にお願いしたい。

③活動方法

- ・事例を用いたディスカッション形式
 - ・パネルディスカッション形式
- のいずれかとなりました。

④パネラーや事例提供者の選定について

第2回研修部会で具体的な例から検討していく。

結 論	<ol style="list-style-type: none">1. 研修内容：在宅看取りの研修を行う。年1回の開催 各関係者がそれぞれどのように在宅看取りを行っているか。2. 研修方法はディスカッション形式とする。3. 次回に具体的な例をいくつかあげて検討する。4. 次回開催 令和4年7月19日（水） 第2回研修部会 13：30～ WEB 会議 内容：研修の実行案のまとめ。1回目の研修会の計画決議。
-----	---